

日本列島食料消費構造への経済的アプローチ - 県庁所在都市の食料費支出
の計量分析(第2報)
鈴木女短大 森 英子

目的 第1報において、49都市・23食品変量の相関係数、主成分分析をおこなった。各因子の解釈、各因子における各都市の因子得点によるランク分けを試みたが、今回は①23食品変量のクラスタ分析と ②49都市間のパターン類似率を算出し、さらにクラスタ分析をおこなった。

方法 ①23食品変量のクラスタ分析は、23食品変量間の相関係数をデータとし、群内平均法の手法を用いた。②49都市のクラスタ分析には、まず各都市間の偏差パターン類似率：
$$\text{rap} = \frac{\sum_{i=1}^n (x_{ai} - \bar{x}_i)(x_{bi} - \bar{x}_i)}{\sqrt{\sum_{i=1}^n (x_{ai} - \bar{x}_i)^2 \sum_{i=1}^n (x_{bi} - \bar{x}_i)^2}}$$
を算出し、この類似率をデータとし、群内平均法の手法を用いた。

結果 ①食品変量は相関係数0.3レベルでは「米・調理食品・外食」「めん・果物・菓子他10種の和風食品」「パン・肉・卵・生鮮魚」「野菜乾物・調味料」「牛乳・ヨーヨー・油脂」「給食」の6グループに、0.19レベルでは「米・外食をふくむ和風食品」「肉・パンをふくむ洋風食品」「給食」の3グループに分けられた。米が0.38レベルでやつと調理食品・外食と結合されたこと、生鮮魚がパン・肉・卵と結合することは意外であった。②は類似率0.2レベルで「札幌にはいる東北・日本海沿15都市」「浦和・千葉・岐阜(サービス購入・アメリカナイスの高い)」「岡山他中四国九州の保守的12都市」「福井・静岡・津・徳島(他都市との類似度が低い)」「京都・大阪・東京等の大都市型14都市の5グループに分けられた。高知市は青森・札幌・前橋・宇都宮市等と類似率がかさなり高く、一方松山等の近隣都市とも一応の類似がみられ、0.17のレベルまでグループ化ができた。